

超高速カメラで止めてみた飛翔

G. リュッペル教授（ドイツ、ブラウンシュバイク工科大学教授）

トンボの羽化—ヤゴがはい出してきた、石の上で動かなくなる。やがて皮がさけて、羽化が始まる。胸が出て、頭が出て・・・・・・

更に同じ過程を前方から。今度は、20分間の羽化の様子を20秒間に縮めて。

腹も出て、上から見ると羽はまだちょっぴりしかないが、やがて羽もどんだんのびてゆく。

以上はルリボシヤンマの一種の羽化のようすで、1秒に500コマ、実際の時間の20倍の長さになっている。

あっ！カエルがいる。トンボがつかまえられるだろうか？

ミミズをつかまえる時はぶきつちよ、でもハエをつかまえる時は舌がのびる。実験してみると、カエルは結構高くジャンプして、長い舌を伸ばす。

今度は南フランスのトンボを見てみよう。ヒツジが水を飲みにくる小川に、イトトンボが沢山いる。オス同志のとまり場所のうばいあい、メスとの配偶行動、交尾、そして産卵。

水のたまった溝がヤンマの一種の産卵場所になっている。メスは水に潜らないから、オスがやってきて、交尾しようとする。

今度はテキサスで撮影した、北アメリカのヤンマのフィルム。産卵場所を探しているオスとメスのペアのところへ、他のオスがやってきて、メスの奪い合いが続く。

他の例を見てみよう。トンボが沢山生息する湿地。カオジロトンボの一種が連なって、水辺にやってくる。水面でメスはオスと離れて、浮かび産卵する。卵は数百とヒモのようにつながっている。ここでもオスはメスの奪い合いをして、メスは最も強いオスを得る。

再び南フランスへもどろう。暑い夏の盛り。トンボたちはとてもものどがかわいている。水面に降りて水を飲んでいる。日中はトンボは陰になったところで休んでいるが、そこではシオカラトンボの一種にねらわれる。

クモの巣にかかったギンヤンマ、パナマのジャングルでクモを獲る巨大トンボ、秋のイトトンボの産卵。空をおおうトンボたちの群れ。